

にっぽん そぞろ歩き

第6回 「もう、いいや」と「これだけは」



「坂だと体が嫌がる」とか「酒量が減った」と嘆くお二人ですが、ドイツ史、映画、亡命作家、作家の日記と、話題は縦横無尽。しかも何も見ないで話が続くのです。

もう、歳？

川本 ちょうど二、三日前に、このへん（中野駅付近）で新潮社の編集者と飲んでいたので。大変な鉄道ファンで、ベストセラーになった『日本鉄道旅行地図帳』という本を作った人です。

池内 鉄道のこと、相談にみえたんですか？

川本 一応そうなんですが、当然ですけど向こうのほうが、はるかに知識がすごい。JR以外の私鉄も路面電車も、すべて乗っているそうです。あと二カ月ほど定年退社なんですが、いまはたまった有給休暇を使って、各駅で降りて写真を撮る鉄道旅行をしているんですって。

池内 思いつきは楽しいですが、実際は大変でしょう

ね。すごい勢いで降りて、自動シャッターで撮影すると同時にターツと電車に戻っていく人がたまにいますけど、忙しいですよ、あれは。

川本 よほど鉄道が好きでないとできない。

池内 そういえば、先日、桐生の大川美術館へ行かれたそうですね。あそこは、何線でしたか？

川本 両毛線です。大川美術館は地図を見ると桐生駅からすぐなので歩き始めたら坂があつて、それがもう直角みたいな急坂で、途中でへばって何度も休憩していたら、後ろから来た車の気のいいオジサンがピツクアップしてくれた。「よく乗せるんですよ」と言っていました（笑）。

池内 ずっと以前、茂田井武展をやったときに、ぼくも歩いて行ったんです。「タクシーに乗るんだっ」と悔やみながら（笑）。当時はまだ元気でしたから、「なんだ、これくらいの坂」と思っていたんですが。川本さんは、どういうところではいばん老いを感じられますか？

川本 やはり足ですが、このところ背中も痛くなつちやうって。前は鍼を打ってもらうといっぺんで治つたのに、なかなか治りにくくなりました。

池内 もしかしたら、椎間板じゃないですか？ 背骨と背骨の間に椎間板というのが挟まっている。いわば、緩衝材です。それがあから背骨が柔軟に動くんですが、だんだんすり減ってきて骨同士がくっついてしまつと、その間に神経が挟まって痛みが出る。ぼくもこの間、整形外科で診てもらったときに、くつついちゃっていると言われて、一応薬を飲んでるんですけど、薬で治ることもある、という程度みたいです。

編集部 背中が痛い、原稿をお書きになるのも辛いのでは？

川本 私は手書きなので、腱鞘炎みたいに腕が痛くなつてしまったときに病院へ行ったら「これはダメだ」と言われて、それで友人に鍼を紹介してもらったら、そのときは一発で治つた。以来、その先生の信者になつたんですが、今回はそう簡単に痛みが消えない。もう歳かな。

池内 背骨は、鍼ではムリかもしれませんね。なだめながらやるしかない。数年前までは歳なんて感じなかったのに、最近は足が疲れるし、坂だと体が嫌がるようになりました。

川本 「坂だと体が嫌がる」というのは、いい表現で